

令和元年度(平成30年度対象)

## 南あわじ市の教育 点検・評価

### 報 告 書



令和元年8月

南あわじ市教育委員会  
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

# 目 次

はじめに	1
I. 次世代の人材を育てる教育	2
基本方針1 「確かな学力」の確立と自立して生きる力の育成	3
基本方針2 「豊かな心」を育成する道徳・人権教育の充実	7
基本方針3 体育・食育活動を通じた「健やかな体」の育成	10
基本方針4 安全・安心で、開かれた学校・園づくりの推進	12
基本方針5 教職員としての資質と実践的指導力の向上	15
基本方針6 遊びを通じた確かな「学び」を培う幼児教育の推進	17
基本方針7 安全・安心に過ごせる教育環境づくり	19
II. 活力と生きがいをはぐくむ教育	20
基本方針1 連帯社会の再生、家庭と地域の教育力の向上	21
基本方針2 体験を通して学ぶ伝統文化の香り高いまちづくりの支援	26
基本方針3 人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進	32
基本方針4 運動に親しみ体力の向上をめざした生涯スポーツの推進	34
基本方針5 社会教育の指導者としての資質と実践的指導力の向上	35
III. 教育環境の変化に対応する取組	36
IV. 評価委員の意見	37

## はじめに

南あわじ市では、「南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口、経済、地域社会の課題に一体的に取り組み、本市の人口減少の克服・地方創生に資する先進性・継続性のある取組を進めていっております。

教育委員会においても、平成27年度から5か年計画として「第2期南あわじ市教育振興基本計画」を策定し、平成30年度は、本計画に基づき「南あわじ市の教育方針」を定め、「ふれあい共生の人づくり」をテーマに、人権尊重を基盤とした教育・文化をめざした事業に取り組んでまいりました。

また、豊かな心と活力ある人材の育成を図るため、「知恵あふれ、ふるさと南あわじを大切にする人づくり」をサブテーマとして、学校教育においては、「次世代の人材を育てる教育」、社会教育では、「活力と生きがいをはぐくむ教育」を基本目標に掲げ、それぞれ具体的な諸事業を推進してまいりました。

これらの諸事業を適切に執行するには、各事業が効率的に実施されているか、有効的に行われているかなど随時点検評価していくことが必要であると考えます。加えて、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条には、教育委員会行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することと規定されております。

こうしたことから、教育委員会では、課題や取組の方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民の皆さんへ説明責任を果たすため、「南あわじ市の教育方針」に基づき平成30年度に実施した主な事業について点検評価を行い、その結果を報告書にまとめました。

なお、点検・評価実施にあたっては、評価内容の客観性を確保するため、学識経験者のご意見をいただいております。今後の教育行政に反映させていきたいと考えております。

また、教育委員会では、よりよい南あわじ市の教育の実現に向けて努力してまいりたいと存じますので、皆様の一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和元年8月

南あわじ市教育委員会

南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

# I.次世代の人材を育てる教育

## 基 本 方 針

- 1 「確かな学力」の確立と自立して生きる力の育成
- 2 「豊かな心」を育成する道徳・人権教育の充実
- 3 体育・食育活動を通じた「健やかな体」の育成
- 4 安全・安心で、開かれた学校・園づくりの推進
- 5 教職員としての資質と実践的指導力の向上
- 6 遊びを通じた確かな「学び」を培う幼児教育の推進
- 7 安全・安心に過ごせる教育環境づくり

## 基本方針1 「確かな学力」の確立と自立して生きる力の育成

### 【重点目標】

- ① 児童生徒の実態に即し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、指導方法の工夫・改善に努め、個に応じた多様な指導の充実を図る。
- ② 基礎・基本の確実な定着を図りながら、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を身に付けさせ、主体的に学習に取り組む姿勢を培う。
- ③ 豊かな体験活動や課題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力等の育成・向上を図るとともに、言語活動を充実させて「ことばの力」を育成する。
- ④ 合理的配慮の提供をふまえ、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る。
- ⑤ 教育活動全体を通じた小中一貫の組織的・系統的なキャリア教育の充実に取り組む。
- ⑥ グローバル化に対応した教育を推進し、英語力の向上を図る。
- ⑦ 人形浄瑠璃等の伝統芸能を活用したコミュニケーション能力の育成を図る。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
① ②	新学習システム推進事業	小学校15校・中学校4校に、加配教員を配置し、個に応じた指導を推進した。(2～4年生の35人学級編制、「兵庫型教科担任制」、少人数授業等)	<p><b>【成果】</b> 2～4年生の35人学級編制においては、担任の指導が行き届き、学力の充実を図ることができた。また、中学校への円滑な接続を図るため兵庫型教科担任制を推進、中1ギャップ解消などの効果が見られた。中学校においては、英語や数学等で少人数授業を行い、基礎・基本の確実な定着と学力向上に一定の成果を上げることができた。</p> <p><b>【課題】</b> 指導内容や進度調整について効果的に打ち合わせを行う必要がある。少人数指導や同室複数指導の有効的な方法をさらに研究していく。今年度は、4校が2学級編制で調査・研究に取り組み、2校で英語の専科にすることによりさらに効果を期待している。</p>	学校教育課
②	南あわじが んぱりタイム (学習支援)	全国学力・学習状況調査結果の分析・検証に基づき、学力向上に向けて、小学校13校において、地域人材を活用した放課後の学力向上方策に取り組んだ。	<p><b>【成果】</b> 市内13小学校で実施した。各校とも、児童の実態に合わせて実施対象学年や実施日数を決定し取り組んだ。基礎学力定着を目指し、漢字や計算等の練習を中心に行った。苦手な定着しにくい内容については下学年の内容を復習したり、理解が進んでいる内容については応用的発展的な問題を用意したりして個々の到達度に応じて個別指導を行った。</p> <p><b>【課題】</b> 希望者が多い場合は、個々のつまずきに応じた個別指導が難しい。学習教材の工夫と充実が必要であるが、学級担任の負担が大きくなっている。学習教材の準備や担任と講師の打ち合わせ時間をいかにとるか等、学校の実態に合わせた運営上の工夫が必要である。</p>	学校教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
③	なかよし音楽会事業	<p>市内16小学校407人の6年生が一堂に会し、4グループに分かれて合同合唱・合奏を披露した。 また、トランペット、ホルン及びピアノ奏者による特別演奏を鑑賞した。 事前にはグループごとの合同練習と講師招聘による研修会を行い、音楽による表現力の向上と指導力の向上を図った。</p>	<p><b>【成果】</b> 市内全6年生が音楽を通じて学校間交流をすることで、音楽による表現力の向上・言語活動の充実が図られるとともに、市としての一体感を向上させることができた。また音楽会当日に向けた各校での練習、合同練習、講師による指導で、市全体の児童の技能向上や指導者の指導力向上も図っている。さらに基本的に同一中学校区でグループ編成することで、中1ギャップの解消に資する活動ともなっている。</p> <p><b>【課題】</b> 小学校での学びが中学校での合唱に生かされるよう、中学校と連携を図り、互いの音楽会への出席や合同実技研修を進めていく必要がある。</p>	学校教育課
③	吉備国際大学との交流	<p>平成25年4月に南あわじ市に新設された吉備国際大学との交流を図った。 近隣の小中学校とイベントを通しての交流を行った。</p>	<p><b>【成果】</b> 地元の三原志知小学校とは、毎年交流が続いており、大学生を運動会に招いたり、学園祭で和太鼓演奏を行っている。また、トライやるウィークの事業所として中学生の受入を行った。 その他、教職員研修を行う際の会場提供やいじめ問題連絡協議会の委員等にも協力いただいている。</p> <p><b>【課題】</b> 専門性の高い授業を提供していただける環境にあるので、今後とも小中学校の発達段階や学習状況に応じた内容を依頼していきたい。また、教職員の研修においても、大学と連携し、より専門的な研究内容を学び、日々の教育実践に生かすことができるような研修の場を設定していきたい。</p>	学校教育課
③ ⑤	中学校体験事業	<p>中学1年生を中心にキャリア教育の一環としてものづくりへの関心を高め、ものづくりの楽しさや喜びを、体験を通して学んだ。 また、わくわくオーケストラでは、音楽専用の本格的なホールで、生のオーケストラの演奏を鑑賞した。</p>	<p><b>【成果】</b> 将来の進路を考える上で、重要となる時期に、プロの職人から実際に技術を学び、ものづくりの魅力を体験し、職業について学ぶきっかけとなった。 わくわくオーケストラでは、生の演奏やクラシックの名曲を聞くことを通して、オーケストラの基礎や、コンサートでのマナーだけでなく、音楽の魅力について学ぶことができた。</p> <p><b>【課題】</b> プロの技に触れることで、技術の習得や生の演奏を味わうことができた。学んだことを、今後の学習の中でキャリア教育の視点で生徒に考えさせながら、トライやるや学校行事等、ひとりひとりのキャリア形成につなげていけるようにさせていく必要がある。</p>	学校教育課
④	小中学校特別支援学級交流事業	<p>市全体(1回)と3つのブロック(各1回)での交流事業を実施し、他校の児童生徒との交流や体験活動を行った。 また、淡路教育事務所の特別支援教育推進員を招聘し、子どもの社会的自立や進路を見据えた支援のあり方について保護者と共に学ぶ機会を持った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瓦体験、進路の話(南淡B)</li> <li>・音楽体験、進路の話(三原B)</li> <li>・砂遊び、水遊び(緑・西淡B)</li> </ul>	<p><b>【成果】</b> 市特別支援学級交流遠足には、15校児童生徒56人、保護者46人、教職員35人、合計137人が参加した。 ブロック交流、市全体交流とも、校外で遊んだり活動する中で、児童生徒だけでなく保護者同士の交流ができた。</p> <p><b>【課題】</b> 各児童生徒の課題は多種多様であり、教育・福祉・医療・労働等の関係機関の連携は欠かせない。将来を見据えた一人一人の支援内容・方法について、確実に引き継いでいく必要がある。</p>	学校教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
④	特別な支援を要する児童生徒への対応	<p>特別支援教育支援員(市単)を26人配置し、特別な支援が必要な児童生徒への指導にあたった。医療的ケアを2校で実施し、看護師を関係校へ派遣した。</p>	<p><b>【成果】</b> 小・中学校において障害のある児童生徒に対し、食事、排泄、教室の移動補助等学校における日常生活動作の介助を行ったり、発達障害の児童生徒に対し学習活動上や生活面でのサポートを行ったりした。また、小学校2校において、学校、家庭、看護師と連携し安全に医療的ケアを実施できた。</p> <p><b>【課題】</b> 個に応じた支援をスムーズに引き継ぐため、教育支援計画・指導計画をもとに関係機関の連携を密にしていく必要がある。また、通級指導を要する児童生徒(59人)も年々増加している。</p>	学校教育課
	トライやる・ウィーク推進事業	<p>事業所、地域、学校、家庭との連携を図りながら、子どもを育てる活動として、中学校2年生を対象に21年目を迎えた。各中学校区におけるそれぞれの事業所で5日間の活動を実施した。</p>	<p><b>【成果】</b> 中学校における進路指導、キャリア教育と関連づけて、事前事後指導の充実を図り、生徒一人一人が自分たちの生き方を見つめ、考えるきっかけとなっている。また、新規の協力事業所数の確保に努めるため担当者や事業所の代表者を集めて、トライやる・ウィーク推進会議を開くことができた。</p> <p><b>【課題】</b> この経験を活かして、事後も地域行事や地域の活動に参加するなどの活動「トライやる・アクション」も全中学校で実施できている。この事業で培われた地域の教育力を活用し、継続していきたい。</p>	学校教育課
⑥	外国語活動支援員の派遣・英語教育の推進	<p>小学校各校に外国人英語指導助手(ALT)を配置し、義務教育段階でネイティブスピーカーの英語に触れ、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を養った。 また、英語が話せる日本人「外国語活動支援員」(ST)の派遣は6年目となり、担当教員、ALTと協力し、授業の充実を図った。 幼稚園・保育所においても、ALTを派遣し、「えいご遊び」を実施し外国の文化に慣れ親しむ活動を行った。 市の英語教育推進委員会も3年目となり、新学習指導要領の完全実施にむけて、カリキュラム作りをしたり教師の資質向上研修を実施したりした。</p>	<p><b>【成果】</b> 小学校において、担任とALT・STが入って行う3人体制の外国語活動の授業が定着してきた。担任は授業全体を計画して授業を進める役を担い、ALTは英語の話すモデルとして、STは授業計画への助言や授業中の支援者として、授業が展開できている。STの配置により、児童一人一人が英語でのやり取りをする場面が増え、意欲的に英語に親しみ、会話を楽しもうとする児童が増えた。また、苦手意識がある児童に対しては、STが関わることできめ細やかな支援が可能となり、意欲を引き出すことができるようになってきている。 外国語活動の早期化、英語科の実施にむけて、担当者だけでなくALTとSTも授業研究等に参加し、授業モデル案作りや教材作りに取り組んだ。特にSTとALTの導入部分の研究は効果を上げている。STは、英語の指導経験の浅い教員の支えとなっている。</p> <p><b>【課題】</b> 小学校外国語活動の移行措置として2年目。3・4年で15時間、5・6年で50時間実施し、外国語活動の内容に加えて、外国語科の内容も扱う。新学習指導要領に対応した新教材を使った授業づくりやALT・STを効果的に活用した指導方法の研究を進めていく必要がある。</p>	学校教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
⑥	外国人講師 招致事業	外国人英語指導助手(ALT)を各校に配置し、義務教育段階でネイティブスピーカーの英語に触れ、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を養った。	<p><b>【成果】</b> 小学校ではALT配置体制を見直し、4名のうち2名を地元ALT、あとはJET-ALTとした。国からの普通交付税措置で、市の財政負担の軽減を図ることができた。また外国語活動の経験が豊富で日本語も話せる地元ALT2名がいることで、教委、学校、ALT、STと会議等を通して、より細やかなコミュニケーションを図ることができるようになり、JET-ALTへの研修や授業サポートも行うことで、児童生徒への指導力向上を図ることができた。さらに、各校の外国語活動の教材整備を行い、子どもたちが英語でふるさと自慢ができるように、外国語副教材「COOL AWAJI」改訂版を制作した。</p> <p>中学校では、「読むこと」「書くこと」も含め、発音や英会話能力が向上でき、さらにレベルアップしたコミュニケーションが可能になった。また、過去のALTとのつながりを生かし、インターネットを使った国際交流を授業に生かす試みも一部の学校で行った。</p> <p><b>【課題】</b> ALTの入れ替わりがあるため、指導力向上を図るための情報交換や研修を活発にしていく必要がある。</p> <p>また、南あわじ市としての国際交流事業や地域等の学校以外にも積極的に関わり、学校での英語教育の成果を発揮できるような取組についても考えていきたい。</p>	学 校 教育課
⑦	コアカリキュ ラム事業	「知恵あふれ、ふるさと南あわじを大切に作る人づくり」を目標に、小中学校9年間を見据え、系統的に育成すべき資質能力を、淡路人形浄瑠璃を題材とし、授業設計を行った。	<p><b>【成果】</b> カリキュラム開発に向け、コアメンバー並びに選抜メンバーを中心に、年間6回のおよぶ研修会を実施した。育成すべき資質能力の明確化や評価方法の検討を行い、淡路人形浄瑠璃を題材とした各学年毎のカリキュラム並びにルーブリック評価の開発を行うことができた。</p> <p><b>【課題】</b> 実際の授業を通して出来上がったカリキュラムやルーブリック評価、授業案、指導方法、教材等が9年間を見据えて適正であるかの検証・検討が必要である。</p>	学 校 教育課



小学校の外国語授業



学力の充実を図る授業

## 基本方針2 「豊かな心」を育成する道徳・人権教育の充実

### 【重点目標】

- ① 郷土の特色を生かした豊かな体験を通して、生命や自然に対する畏敬の念を育む。
- ② 自尊感情を高め、自己実現と共生をめざす人権教育を推進する。
- ③ 豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、他者への思いやりを育む道徳教育と道徳的実践力を培う。
- ④ 郷土の先人の生き方等地域の歴史を学び、ふるさと意識の向上を図る。
- ⑤ 「特別の教科 道徳」の理念に沿って、「考え、議論する道徳」の授業づくりを進める。

重点目標項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
①	小学校体験事業	<p>小学校5年生では、4泊5日の自然学校、3年生では3回から5回の校外での環境学習を実施した。</p> <p>自然学校では、全小学校で、防災に関するプログラムを開発し、実施している。淡路青少年交流の家を拠点に活動、南淡B&amp;G海洋センターにてカヌーなどの海洋スポーツを体験した学校もあった。全小学校で、防災に関するプログラムを開発し実施している。</p>	<p><b>【成果】</b> 自然学校では、多様なプログラムを通して自然を体感するとともに、集団生活の中で協調性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている。また、防災学習を全校実施しており、体験活動を通して防災意識を高め、命のつながりを考えるきっかけとなった。</p> <p>また、環境学習では、各校区における自然環境に触れながら、地域住民の協力を得た多くの体験活動が展開され、ふるさと意識を持たせることができた。体験活動を通して自然に対する畏敬の念をはじめ、命のつながりや大切さを学ぶことができた。</p> <p><b>【課題】</b> 環境学習では、命のつながりや大切さに焦点を当てたプログラムを開発する必要がある。</p>	学校教育課
④	ふるさと学習の促進～ふるさと副読本の活用～	<p>淡路ふるさと学習副読本「ふるさと淡路島」、あわじ環境未来島副読本「みらい」を活用して、ふるさと意識を育む学習に学校教育全体で取り組んだ。</p>	<p><b>【成果】</b> 児童生徒自身が、社会科や理科、総合的な学習の時間等で、淡路島の地理や歴史・文化等の調べ学習等に活用できた。授業中のみならず家庭学習でも活用でき、日々の生活の中でふるさと淡路島への関心を持つきっかけとなった。また、自然学校や環境体験の前後に副読本を使って学習することで、知識と体験が結びつき、地域の良さやすばらしさを児童生徒が体感することができた。</p> <p><b>【課題】</b> 自分たちのふるさとである淡路島について学習する中で、ふるさと意識を深め、地域の愛をどのように育んでいくかが課題である。ふるさとの現状も理解し、将来的に地域を思い考える子どもの育成を目指し、学校・家庭・地域が積極的に関わっていくことが重要である。</p>	学校教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	帰国外国人 受入体制推 進事業	日本語の理解や会話が不十分な外国人児童生徒への学力保障等を目的に、学校へ外国人児童生徒支援員を派遣する体制ができています。	<p>【成果】</p> <p>日本語指導が必要な児童生徒に、外国人児童生徒支援員を学校へ派遣し、日本語指導だけでなく異文化の生活で感じるストレスを和らげるとともに、保護者に対して母語で通訳することで、学校と家庭との連絡がスムーズにできるようになった。</p> <p>【課題】</p> <p>突然来日する外国人児童生徒の受入体制や母語を話せる支援員の確保が課題である。また、学習支援・進路指導等で個別に対応した支援をいかにしていくか、義務教育の最終年度の進路指導等、十分なサポートが必要である。</p>	学 校 教育課
②	教職員人権 教育研修事 業	教職員の人権感覚や人権尊重の意識向上を図り、人権教育の進め方、実践力を高めるための研修会を実施した。	<p>【成果】</p> <p>市内教職員の5割の参加を得て人権学習(「みんなの学校」)を実施した。ひとりひとりを大切に、誰もが安心して過ごすことができる学校づくりを实践された元小学校長を招聘した講演会では、人権意識を高めることができた。また、市内人権授業研究会を行い、低学年は沼島小、中学年は松帆小、高学年は神代小、中学校は広田中で授業公開し、事後の授業研究でも活発な討議ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>新たな人権課題が増加する中で、小中学校が9年間を見据え、系統立てて人権意識を育む取組を図っていく必要がある。市内小中学校において「人権教育プロジェクト」を立ち上げ、各学年毎に研修内容の精選や授業改善を行いながら、教師自身の人権意識の高揚、指導力の向上を図っていく。</p>	学 校 教育課
③	兵庫版道徳 教育副読本 の活用	兵庫ゆかりの人物を取り上げた「兵庫版道徳教育副読本」を小中学校で、各学年ごとに年間指導計画に位置づけ、積極的な活用を図った。	<p>【成果】</p> <p>全学校において、道徳の授業だけでなく、学校教育全体で副読本を活用している。特に、小学校では「特別の教科 道徳」が始まり、カリキュラムマネジメントにより副読本の活用の位置づけが明確になった。日々の授業だけでなく、家庭に持ち帰り、家族で読み合うなど、積極的な活用を進めている。</p> <p>【課題】</p> <p>「兵庫版道徳教育副読本」を活用し、教材分析や指導方法の工夫等、さらなる効果的な活用を研究していく必要がある。</p>	学 校 教育課



環境学習



自然学校で防災学習

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
③	夢プロジェクト事業	<p>著名なスポーツ・文化人の講師を招聘し、南あわじ市内小中学校の児童生徒にスポーツ・文化の良さや楽しさ、そして努力する大切さなどを感じてもらい、目標を大きく、また大きな夢を持って生きていくことを期待しより豊かな生活を送ってもらうことを目的に開催した。</p> <p>-派遣学校-</p> <p>西淡・南淡中学校 2校 北阿万・阿万・広田小学校 3校</p> <p>-講師-</p> <p>ウィントバンド: 早稲田摂陵高等学校吹奏楽部 柔道: 杉本美香 チアリーディング: 梅花女子大学 体操: 新島卓矢 陸上: 小林祐梨子 ※特別企画として市内小中学校の希望する児童を招待してVチャレンジバレーボール教室開催 講師: 兵庫デルフィーノ</p>	<p>【成果】</p> <p>市内中学校の2校と小学校の3校、あわせて5校へ著名なスポーツ・文化人を講師に派遣した。講演や実技を見て感動を覚え、将来の夢を描ききっかけになるよう期待する ※沼島小中学校へ予定していたフィギュアスケート坂本香織さんとの日程調整が出来ず、中止となった。</p> <p>【課題】</p> <p>都市部に比べ、著名なスポーツ・文化人と交流する機会が少ない子どもたちにとって、将来に夢を持つこと、諦めない心を育てる機会となっている。一方、講師の選択や学校との日程調整、また限られた予算内で講師を選択しなければならないことから、子どもたちの期待する講師へのオーダーや講師との調整等に苦慮する。</p>	体育青少年課
⑤	「特別の教科 道徳」の授業づくり	<p>前年度より、「特別の教科 道徳」の実施に向けた年間の指導計画の作成、教材研究、評価等の研修を行ってきており、各小学校では不安や混乱なく授業実践が行われた。</p> <p>また、次年度から中学校でも完全実施になること、小学校では1年間の取り組みの成果と課題が明確になることから、引き続き授業の指導方法や評価等について、年3回の研修会を開催した。</p>	<p>【成果】</p> <p>授業の指導方法や評価の仕方等の研修で、完全実施に向け十分な準備等を行うことができた。また、指定の教科書を使った授業だけでなく、「兵庫版道徳教育副読本」、防災教育の視点から「明日に生きる」、人権の視点の「ほほえみ(小学校)」「きらめき(中学校)」等、様々な教材等を活用しながら、兵庫の道徳教育を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>評価が文章表記であることから、授業での児童生徒の道徳的心情や行動の変化をしっかりと見取る方法や分析の仕方等、評価する教員の能力の向上が求められる。また、授業の質の向上を目指し「考え、議論する道徳」の授業についても教員の指導力の向上が求められる。</p>	学校教育課

夢プロジェクト事業



## 基本方針3 体育・食育活動を通じた「健やかな体」の育成

### 【重点目標】

- ① 運動に親しむ習慣や意欲を養い、体力・運動能力の向上を図る。
- ② 発達段階をふまえた指導、安全の確保や休養の設定などにより、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
- ③ 健康で安全な生活を送るための基礎を培うとともに、家庭や地域と連携して食育の推進に取り組む。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
①	小学校体育事業	<p>「かけっこマニュアル」を活用して、児童の走力向上を図った。                      (南あわじ市小学校体育連絡協議会)                      南あわじ市小学校陸上競技大会には、市内16小学校の4年生以上が一堂に集い、陸上競技大会を開催した。                      あわじっ子スポーツ大会(小学生陸上競技大会)島内の5年生以上が参加した。</p>	<p><b>【成果】</b>                      4・5・6年生の体力(走力・跳力・投力・持久力)を高める指導を通して、児童の総合的な体力の向上を図ることができた。各校で「かけっこマニュアル」を活用したり、2年連続して陸上指導の第1人者を講師に招いたりして、体育担当の指導力向上を図った。                      特に走力・投力では、体育の授業の指導において大きな成果があった。陸上大会は児童にとっても、仲間とともに目標をもって練習に励み、体力向上の良い機会となっている。</p> <p><b>【課題】</b>                      運動に親しむ児童とそうでない児童の2極化がなお課題となっており、主体的に体を動かして遊んだり運動したりする習慣作りが課題である。運動を身近で楽しみながら取り組ませ、子どもたちの生活習慣と体力運動能力テストの結果を生かし、体力や運動能力の向上の取組を継続していく。</p>	学校教育課



陸上競技大会にむけて



体育大会

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	体力アップ サポーター 派遣事業	<p>「体力アップひょうご」サポート事業の一環として、市内中学校の保健体育科教員を校区の小学校に派遣し、年間3回以上の体育授業を行い、体力向上の取組を進めた。</p> <p>倭文中学校教員を倭文小学校に、西淡中学校教員を西淡志知小学校に、三原中学校教員を神代小学校に派遣し、取組を支援した。</p>	<p><b>【成果】</b> 西淡志知小学校、神代小学校では、陸上競技の授業、倭文小学校では器械体操、陸上競技を中心に授業が行われた。専門的な内容を中学校教員が学齢に合わせて工夫した授業を行い、児童も意欲的に取り組み、運動への興味を高める事業となった。また、隣接する小・中学校の連携を図ることができた。</p> <p><b>【課題】</b> 事業をきっかけとして、日々の授業の実践や各学校での日常的な運動習慣づくりや体力アップにつなげていく必要がある。また、小中連携を行いながら、系統的な体育のカリキュラムづくりを検討していくことも必要である。</p>	学校 教育課
③	食育推進事 業	<p>学校教育全体で食育を実践している。「弁当の日」を継続実施し、各校で特色のある取組を行った。</p> <p>和食・地産地消・食のマナーなど学校給食を活用して食育に取り組むとともに、学校給食に地場産物を活用しふるさとの味と食文化を継承していく。倭文中学校において、県の研究指定を受け、市内の小中学校に取組を積極的に発信した。</p>	<p><b>【成果】</b> 各教科や特別活動等と関連づけながら学校教育全体で食育を行っている。農業体験で育てた野菜で料理を作ったり、いずみ会と連携して地場産物を活用した料理作り等に取り組んだ。今年度は、倭文中学校において県の研究指定を受けて、地域の食育実践の研究を推進した。</p> <p>また、学校給食地場食材利用拡大事業を展開し、学校給食に地元の食材提供した。美菜恋来屋との販路拡大、はじめてプリの提供で、生産者の思いにふれ、ふるさとの自慢の食を味わった。</p> <p><b>【課題】</b> 家庭において、和食や伝統料理の継承が難しくなっている。手軽に食べ物が手に入る生活環境の中で、児童生徒だけでなく、保護者や家庭、地域に対して、食に関する実践や情報を提供していくことが課題である。</p>	学校 教育課



体力アップサポーター派遣事業



地場食材拡大事業

## 基本方針4 安全・安心で、開かれた学校・園づくりの推進

### 【重点目標】

- ① 学校評価を生かし、「社会に開かれた教育課程」を重視する学校・園づくりを進める。
- ② 幼・保・こども園、小、中、高、大の連携を一層深め、家庭や地域との絆を強め、安全な環境で、安心して生活を送ることができるよう実践を進める。
- ③ 子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実を図り、いじめなどの問題行動に的確に対応する指導体制を整備し、未然防止や早期発見、早期対応に取り組む。
- ④ 家庭・地域・関係機関との連携をより深め、自らの命は自らで守る能力や人としての生き方・あり方を学ぶ防災教育を推進する。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価		担当課
			成果・課題及び今後の対応等		
①	学校評価の実施	幼稚園・小中学校において、学校評価の取組を実施した。 (自己評価、学校関係者評価、評価の公表等)	【成果】 各学校・園で、学校内の評価とその公表、学校関係者の評価とその公表を実施し、評価結果を以後の教育活動の改善や推進につなげるPDC Aサイクルが定着した。また、あんしんネット、学校だより・メール配信等で、学校の情報を広く知ってもらう取組も進んだ。	【課題】 学校評価や関係者評価での意見を活かし、さらに地域との連携・協働を深めて教育活動充実させ、推進していく必要がある。学校の状況や取組をより知っていただくためにも、あんしんネットやHPを効果的に活用し、積極的に情報発信していく必要がある。	学 校 教育課
②	小中連携の推進	中1ギャップを解消するため、各中学校区で授業体験や出身校訪問などの取組を進めている。 特に、キャリア教育の視点にたち、系統的なカリキュラムやキャリアノートを活用して、小中間の連携を図った。	【成果】 交流事業により、6年生が中学校を身近に感じることができるようになり、中学校生活への不安の軽減に繋がっている。小中でのキャリアを見据えた全体計画やカリキュラムを共有し、目指す児童生徒像を確認しながら、系統的な指導が行えるようになってきた。	【課題】 9年間を見通したカリキュラムや資質能力の育成の計画を小中教職員が共通理解しながら、各中学校区毎で推進協議会等で充実させていく必要がある。	学 校 教育課
② ④	自然学校における防災教育の取組	市内全小学校の5年生が、自然学校において、震災・学校支援チーム(EARTH員)や市役所危機管理課員等を招くなどして、各校で工夫した防災学習に取り組んだ。	【成果】 避難所体験活動(段ボールで就寝スペース作成、就寝)や校区の防災マップ作り、防災オリエンテーション、災害食作りなど体験活動を通して、防災について考え、自主的にまた仲間と協力して行動することができた。	【課題】 自らの命は自らで守る力を身に付ける従来の安全教育に加え、人間としての生き方・あり方を考える防災教育を推進していく必要がある。	学 校 教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
② ③	学校運営支援対策員事業	学校生活にうまく適応できない児童生徒への対応について、各学校と連携し、「学校運営支援対策員(警察OB、教員OB)」が支援を行った。	<p>【成果】</p> <p>課題を抱える学校を訪問し、児童生徒・保護者への対応や関係機関との連携の在り方について指導助言を行い、円滑な学校運営につなげている。本年度は、延べ434回の学校訪問を行い、支援を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>組織的に学校支援に取り組むため、各教育関係機関との連携を更に深めなければならない。</p>	学 校 教育課
②	幼稚園・こども園ウィーク活動事業	『親子ふれあいフェスティバル』及び『造形展』の実施(幼稚園・こども園4園の交流)	<p>【成果】</p> <p>講演会では、「子どもの睡眠と発達について」の話をデータ等を基に、専門の講師から聞くことができた。また、親子ふれあい遊びでは、講師二人の話術の面白さに引き込まれ、ふれあい遊びやリズムに合わせて体を動かす活動を楽しむ姿が多く見られ、親子関係を深めることができた。</p> <p>商業施設での展示となった造形展は、保護者や地域の方々に幼児教育の一端を見ていただく機会となり、園児の豊かな感性に関心を抱いてもらうことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>2事業を進める中で、園児にとっては友達と遊ぶ時間と親と遊ぶ時間があり、活動にメリハリができてよいが、家族で参加する家庭もあり、講演会時における兄弟たちのマナーが気になることもあった。ふれあい遊びの時には楽しい雰囲気で大盛況になるので、今後も会場や内容の検討を考えなければならない。</p> <p>商業施設での作品展示のため、幼児の造形・絵画表現力を一般の方にも観覧してもらえたので、今後の継続を希望していく。</p>	学 校 教育課
②	通学路安全推進会議の取組	各道路管理関係機関、学校代表、保護者代表、警察が、通学路安全推進会議において、安全上・防犯上で危険な箇所を、学校毎に予備点検を行いながら精査し、緊急性を要する箇所の合同点検を行い、整備・改善を図った。	<p>【成果】</p> <p>各校における通学路の予備点検により、登下校時の危険箇所等を洗い出すことができ、安全上・防犯上の対策を講じることができた。また、各道路管理によって通学路の整備や修繕が図られ、通学路の安全性を高めることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>安全整備に十分な予算の確保、条件により整備に時間を要すること等で、安全上・防犯上、特に緊急に施策が必要な危険箇所を精査し、優先順位を決めて対応していく必要がある。</p>	学 校 教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	子ども安全対策	市内の小中学校と幼稚園、さらに今年はこども園、保育所(園)、放課後子ども教室、学童保育にも登録を拡げ、不審者情報や緊急防犯情報をメールで一括配信する「こどもあんしんネット」で情報を発信した。 また、緊急時において、警察等の関係機関との対応が図れるよう連携した体制づくりを進めた。	【成果】 放課後子ども教室、学童保育、こども園や保育所(園)の登録が追加され、各学校園等の予定や行事等も併せて、緊急を要する不審者情報や緊急防犯情報をメール発信し、安全対策の基盤となる家庭・地域との情報共有に効果を上げており、各学校園等からの情報提供手段として定着している。また、警察等と連携を図り、防犯カメラや防犯灯(LED)の設置等、地域の防犯や安全の対策を積極的に進めた。  【課題】 警察をはじめ関係機関や地域とさらに連携を図りながら、子ども達の安全管理を広く地域住民に周知していく必要がある。	学校教育課
③	いじめ問題対策連絡協議会・対応委員会	南あわじ市いじめ防止プロジェクトを全小中学校で実施した。 いじめ問題対策連絡協議会に、学識経験者、保護者代表、学校代表、地元警察、人権・福祉等関係機関を委員に委嘱し、市のいじめ防止について市内の状況や小中学校での取組等に情報交換並びに協議を行った。	【成果】 各校とも児童生徒が主体となって、いじめ防止の活動を行った。教師からの指導に偏らず、児童生徒の側からもいじめと向き合うことやいじめを許さない集団づくりが定着してきた。教師もいじめの積極的認知に取り組んでいる。また、いじめ問題対策連絡協議会では、本市の現状といじめ防止に向けた学校における取組方針について共有し、いじめを許さない学校づくりについて意見交換を行い、学校への啓発を行った。  【課題】 インターネット、スマホでのいじめ等、いじめの実態が把握しにくくなっている。その中で、いじめの積極的認知ができるように学校と保護者・地域・関係機関の連携し、啓発活動をはじめ、さらに密にして対応していく必要がある。	学校教育課
④	防災教育の推進	中学生を対象に防災ジュニアリーダー研修や東北ボランティア活動を行った。各学校において、それぞれ独自の取組を実施した。 また、拠点避難所部会を開催し、市職員・市教委・EARTH員と避難所運営の確認を行った。 11月に、西淡中学校が県のメイン会場となり、総合防災訓練を行った。 舞子高校と教育協定を締結し、防災出前授業を6校で行った。	【成果】 防災ジュニアリーダー研修や東北ボランティア活動を通じて、防災への知識や意識が高まった。舞子高校生による防災出前授業は、児童にとって心に残るものとなった。また、災害支援を考慮し、相互扶助を目的としたカウンターパート方式事業を、市内の小中学校で取組を進めた。  【課題】 防災計画・避難訓練の効果的な活用を図り、自分で考え判断し行動する児童生徒の育成を目指す。学校管理下外や緊急時に臨機応変に対応できる行動力の育成が課題である。	学校教育課



東北ボランティア活動



小学校での防災学習

## 基本方針5 教職員としての資質と実践的指導力の向上

### 【重点目標】

- ① 教職員としての高い使命感・倫理観を保持し、豊かな人間性の涵養に努める。
- ② 幅広い視点からICTを意図的・計画的に活用し、教育効果の向上をめざすとともに、教育の専門家としての感性豊かな実践的指導力の向上を図るなど、絶えず研修を深める。
- ③ 社会の変化に対応した教育観を培い、子どもに対する愛情と責任感を持ち、体罰に頼らない心の通い合う指導の充実を図る。
- ④ 初任者や若手教職員の研修を充実させる。
- ⑤ 兵庫教育大学と教育協定を締結し、ミドルリーダーを中心とした研修体制を整える。

重点目標項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
① ② ③	教職員研修事業	<p>学力向上 ゆずりはプロジェクト事業開始(H28～H30) H30実施校 7校 三原中・西淡中・倭文小・市小 神代小・賀集小・福良小</p> <p>小中学校教職員のグループ研修及び各学校における課題研修等、その取組に応じて、支援を行った。</p>	<p>【成果】 ゆずりはプロジェクトの実施校においては、各校で研究テーマを設定し、専門家とともに授業研究等を行った。授業研究会は市内に広く周知し、教職員の研修の場を広げることができた。 また、実施校以外においては、本市の教職員研修事業を活用し研修を積んだ。学校の研究テーマや新たな課題に対応する授業力の向上、特別支援教育等、目的やテーマを定め、3年間で22校全ての学校で実施することができた。</p> <p>【課題】 今後求められる新たな学びの指導方法や教育課題等について、今後も研修を実施し、教員の指導力向上を図っていく必要がある。</p>	学校教育課
① ② ③	人権教育授業研究	<p>道徳教育と人権教育研究プロジェクトをもとに、幼保・小中・高等学校間の連携、共通理解のもと発達段階に応じた共通教材の選定、系統的な授業公開・授業研究の交流に努め、子ども同士により豊かな人間関係や人権意識の変容を図った。</p> <p>小学低学年 沼島小学校 小学中学年 松帆小学校 小学高学年 神代小学校 中学校 広田中学校</p>	<p>【成果】 小中学校授業研究会では、研究校が中心となり学識者とともに資料開発や授業研究を行った。研究後は、南人教が発行する「南人教プロジェクトだより」で学びを共有した。小学校から中学校へと系統的に人権教育を図るよう「人権プロジェクト」を進めており、それぞれの学年で共通のテーマや教材を決め、教材研究や公開授業等の実践に取り組んだ。 また、南あわじ市人権教育・道徳教育推進委員会を開催し、「特別な教科 道徳」の中での人権教育の推進について共通理解を図った。</p> <p>【課題】 多様化する社会において、取り組むべき新たな人権課題は多い。LGBTやSNSを取り巻く人権課題によるトラブルも起こっている。児童生徒の身近にある差別をテーマにした研修を取り入れ、教師一人一人が積極的に人権感覚を磨き、家庭・地域と連携して学び続けていく必要がある。</p>	学校教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
① ② ③ ⑤	学校経営自主研修会	学校経営の後継者育成を大きなねらいとし、2グループに分けて年間10回程度の研修会を開催した。	<p>【成果】</p> <p>各学校における教育の取組について意見交換を行うとともに、教育の今日的課題を解決するための方策について研究、協議し、次代を担うリーダー育成に寄与することができた。女性を含めた多くの教員が積極的に参加し、研修する体制が定着してきた。</p> <p>【課題】</p> <p>近年、管理職が不足する事態が予想されるため、中堅教員の資質をより高め、主幹等のミドルリーダーを育てる必要がある。</p>	学 校 教育課
① ④	初任者研修	初任教員に対して、「学級経営」、「生徒指導」、「ふるさと学習」、「児童理解」を柱に、全3回の研修を行った。	<p>【成果】</p> <p>校長OBである学校教育指導員による講義、日本遺産コーディネーターによるふるさと学習研修、また、スクールカウンセラーによる児童生徒理解研修や適応教室見学など、見識を広め力量を高めるとともに、教師としての資質向上を図ることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>今後も、ふるさとを知る学習はもとより、学校教育や今日的な課題等に取り組まなければならない事案が増えている。研修内容について、現状等を考慮しながら進めていく必要がある。</p>	学 校 教育課
②	教育用コンピュータ管理	安全・安心かつ効率的に機能するように適切に保守管理を行うとともに、情報セキュリティ等教職員の研修を行った。 また、次年度からモデル校で利用する学校支援システム(グループウェア・校務支援)について、プロポーザルで決定した業者(㈱内田洋行)や各学校担当と協議を重ね、システムの構築や研修を行った。	<p>【成果】</p> <p>コンピュータとその関連機器の保守管理とともに、情報セキュリティ研修でトラブル事例なども紹介し、情報漏えいのリスクについて意識向上を図った。ウイルス感染は数件あったが、いずれも迅速な対応と報告があり、成果が出ている。 また、タブレットの導入により、無駄のない、時代に即応した授業が可能となった。</p> <p>【課題】</p> <p>教職員の校務にかかる負担を軽減するため、学校支援システム(グループウェア・校務支援)が西淡地域をモデル地区として導入され、検証と改善を含め、今後市内全校へのスムーズな導入に繋げたい。 また、ICT教育(ICTを利用した情報教育)の方向性(小中学校でのICTを活用した授業への取組)について検討する必要がある。</p>	教 育 総務課
⑤	サテライト講座	兵庫教育大学と協定を結び、学校経営の研修会を年間5回開催した。	<p>【成果】</p> <p>各学校における管理職や主幹教諭、ミドルリーダーを中心に、兵庫教育大学大学院 浅野良一教授を招聘し研修会を開催した。教育の今日的課題解決、学校運営やマネジメントについて、深く学ぶ場となった。</p> <p>【課題】</p> <p>今後、学校運営を担う管理職が不足する事態が予想されるなかで、マネジメントノウハウの継承や中堅教員の資質向上等を通して、学校経営の能力を育成して必要がある。</p>	学 校 教育課

## 基本方針6 遊びを通した確かな「学び」を培う幼児教育の推進

### 【重点目標】

- ① 幼児の発達や自発的な活動の遊びを重視し、体験を通したものの「見方・考え方」を育む。
- ② 幼・保・こども園、小の連携及び交流活動を通して、円滑な接続を行う。
- ③ 幼児の直接的・具体的な体験活動を通して、伝え合う力の育成や自立と協同の態度を培う。

重点目標項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	PDCAサイクルに基づく保育	幼児の発達を見通した創意ある教育課程の編成・実施 特別な支援が必要な幼児の指導（園内委員会においての実態把握や支援方法などの探求）	<b>【成果】</b> 日々の保育の反省・評価を欠かさず、幼児の内面や育ちを捉えていくことで、一人一人の良さや可能性を引き出すことができた。また、様々な遊びや体験の中で、主体的に活動する姿が見られるようになった。支援が必要な幼児の指導については、全職員で見守っていくことに心掛け、職員間の共通理解を図るための話し合いや研修への参加を通して、合理的配慮の観点を視野に入れ、適切な支援への取組を進めた。	学校教育課
②	こども園・幼小連絡協議会	円滑につながる、こ幼小接続の充実と体制作り（年2回各校長、園長が集まり、交流計画や連携について意見交換）	<b>【成果】</b> こ幼小交流内容について、お互いに意見交流や情報交換ができ、幼児教育への理解が得られた。特に、幼稚園教育要領改訂の実施に伴い、「幼児期において育みたい資質・能力」が、小学校につながる「基礎」となることを、交流活動の場において学ぶことができた。こ幼小の関係性を大切にするためにも、幼児と向き合い、どう育てるか見直し、内面理解に努めることの重要性を感じた。	学校教育課

**【課題】**  
 幼児と児童との交流の場を広げるだけでなく、職員が互いに授業保育の参観をすることで、どんな力や学びがつながっているのか、理解し合うことが必要である。保育内容の充実を図りながら、小学校への滑らかな接続に取り組む姿勢を大切にしていかなければならない。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
③	豊かな体験活動	直接体験や感動体験を通して、自立に向かう姿の育成、豊かな感性を育て伝え合う力を養う取組を行った。	<p><b>【成果】</b> 身近な自然に直接触れて遊ぶ体験や感動体験をする中で、教師や友達と心を弾ませ遊びを展開していくことは、幼児の心を豊かにし、自分の思いを伝え合う楽しさを味わうことができ、様々な気づきや学びを積み重ねることにつながった。また、豊かな体験活動を経験することで、自信をもって行動する姿が見られるようになり、自立心を育てることができた。</p> <p><b>【課題】</b> 幼児期に体験すべき大切な学びの環境を整え、協同する経験や発達を捉えた保育の展開ができていくか見直していかなければならない。また、幼児が思わず伝えたいくなるような体験や話すこと、聞くことを楽しむ体験を通して、伝え合う力が育っていくように、教師は保育の中で常に意識していくことが大切である。</p>	学 校 教育課

直接体験・感動体験



## 基本方針7 安全・安心に過ごせる教育環境づくり

### 【重点目標】

- ① 小学校への空調設備の整備を実施する。
- ② 子どもたちが安全で安心な学校生活を送れるように、小・中学校施設の改修等を行う。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	小学校空調設備整備事業	<p>今年度は、第3期工事として、倭文(8教室)、神代(11教室)、北阿万(8教室)、阿万(9教室)小学校4校の整備を実施した。</p> <p>また、H31年度第4期工事予定の4校(湊、沼島、西淡志知、三原志知小学校)の実施設計業務を行った。</p>	<p><b>【成果】</b> 年間を通して快適な学習環境を整えることで、児童や教員らの満足度と学習効果の向上を実現できた。 これにより、児童の学力アップと教師のより効率的な授業展開が期待される。</p> <p><b>【課題】</b> 適正な空調の運用管理の徹底により、学習環境の保全と省エネに努める必要がある。</p>	教育総務課
②	小・中学校施設の改修	<p>今年度、広田中学校校舎大規模改造工事(第2期)を行った。</p> <p>また、H32年度に改修予定の賀集小学校校舎に係る耐力度調査業務を行った。</p>	<p><b>【成果】</b> 広田中学校にて校舎の大規模改造(老朽)を実施したことで、全ての生徒・教員が安心して学校生活を送れるようになった。</p> <p><b>【課題】</b> 老朽化で大規模改修を早期に行いたい学校が他にもあるが、財政的理由にもより空調整備を優先的に行っている為、大規模改修が遅延状況にある。</p>	教育総務課

## Ⅱ.活力と生きがいをはぐくむ教育

### 基本方針

- 1 連帯社会の再生、家庭と地域の教育力の向上
- 2 体験を通して学ぶ伝統文化の香り高いまちづくりの支援
- 3 人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進
- 4 運動に親しみ体力の向上をめざした生涯スポーツの推進
- 5 社会教育の指導者としての資質と実践的指導力の向上

## 基本方針1 連帯社会の再生、家庭と地域の教育力の向上

### 【重点目標】

- ① 家庭の教育力の向上を図るため、学習機会の提供と子育て支援の充実を図る。
- ② 「地域のおじさんおばさん運動」等のネットワークづくりを活用して、子育て家庭への見守りや青少年の健全育成に努める。
- ③ 地域の連帯意識を高めるため、異年齢や異世代とのかかわりを通して、自主性や創造性・社会性を育む体験活動、学校支援活動の充実を図る。
- ④ 住民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を創出するため、年齢や性別、障害等を問わず、人々が、関心や適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備する。
- ⑤ 「早寝・早起き・朝ごはん」運動や「あいさつ運動」を進める。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	家庭学習の手引き作成事業	子どもの望ましい学習習慣や生活習慣の形成に向けて、『南あわじっ子に確かな学力を！』のリーフレットも配布し、家庭での取組や学習について、学校と家庭の連携を図った。	<b>【成果】</b> 子どもの発達段階に応じて、家庭学習の時間や方法、生活習慣の形成に係る内容をリーフレットにまとめて家庭に配信し、家庭教育への意識の向上に取り組めた。  <b>【課題】</b> 保護者に対しては、学習習慣や生活習慣の形成が重要であることを継続して啓発していく必要がある。また、子どもが主体的に家庭学習に取り組めるように、学校と保護者がさらに連携していくことが大切である。	学校教育課
①	家庭教育推進事業	就学前児童の保護者を対象に、臨床心理士による「各発達段階における子どもとの接し方」について研修会を開催した。 また、連合PTA事業として、子育ての家庭の教育力向上を図るため、家庭教育フォーラムを開催した。	<b>【成果】</b> 市内小学校5校が利用。就学前児童の保護者への研修会では、各発達段階の心の変化への対処方法を研修し、心の悩み等をいち早く発見し、早期対応能力の向上につなげることができた。 家庭教育フォーラムは、市連合PTA事業であるが、PTA会員だけでなく、一般市民にも参加を呼びかけ、「大切な人との想いを伝える」をテーマに元読売テレビアナウンサーの清水健さんを講師として迎えて実施した。フォーラムには、PTA会員をはじめ約350名の参加者があった。  <b>【課題】</b> 学校での教育相談に関する事業が、充実していることもあり、臨床心理士による研修会を実施する学校は少ない傾向にある。就学前児童の保護者を対象とした研修は実施時期が限られているので、周知を図る時期を早める等、検討する必要がある。 家庭教育フォーラムでは、子どもたちを取り巻く現代社会の環境変化の激しさをすばやくとらえ、フォーラムの目的と成果を明確にし、連合PTAと協議しながら実施する必要がある。	社会教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課												
			成果・課題及び今後の対応等													
① ③	放課後子ども教室事業	<p>地域の方の協力を得て、異年齢による工作・クッキング・楽器演奏・合唱・スポーツ等様々な体験プログラムや交流・遊び等を通し、子どもたちが安全で健やかに過ごせるように居場所を提供した。また、国立淡路青少年交流の家の遊びリンピックに参加し、教室で体験できないメニューを実施した。</p>	<p><b>【成果】</b> 遊びリンピックの体験事業では、遊び方の工夫や物のしぐみ等を学びながら楽しく活動ができた。 西淡志知教室・三原志知教室では、週2回開設を3回にまた、沼島教室では週1回開設を2回にそれぞれ増やし、利用向上を図った。 湊・辰美教室では、学童保育所との一体型運営を月1回実施し、連携交流を図ることができた。</p> <table border="1"> <tr> <td>&lt;比較&gt;</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>総開催数</td> <td>339回</td> <td>348回</td> <td>↑9回</td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>5,201人</td> <td>5,070人</td> <td>↓131人</td> </tr> </table> <p><b>【課題】</b> 次年度に向けては小学校統合により教室の確保が困難である。また、設置回数を拡大することで利用場所を移動したり、一体型運営での利便性が悪い。</p>	<比較>	29年度	30年度	増減	総開催数	339回	348回	↑9回	のべ参加人数	5,201人	5,070人	↓131人	体育青少年課
<比較>	29年度	30年度	増減													
総開催数	339回	348回	↑9回													
のべ参加人数	5,201人	5,070人	↓131人													
① ③	放課後児童健全育成事業(学童保育)	<p>保護者が労働等によって、昼間家庭にいない小学生に対して、遊びや生活の場を集団保育として提供し、児童の健全育成を図る目的で、市内13校区(学校内9か所、学童保育所専用2か所、公民館1か所、私立こども園内1か所)で実施した。 また、西淡志知・三原志知小学校校区については、送迎型学童保育を実施し、未開設校区の解消を図った。 市小学校区については、児童者数の増加に並行し、登録者も増加したことで隣接する公有地において、学童保育所を新築し、2クラス設置した。</p>	<p><b>【成果】</b> 登録者は全体で平均290人の利用があり、昨年度の平均より約23人の増加となっている。核家族の加速化や女性の就業率が伸びていることが背景にあると思われる。 西淡志知・三原志知小学校区における送迎型保育の利用については、1回1名の利用であった。両校区の放課後子ども教室の利用が充実しているためであると考えられる。 体験プログラムを取り入れ、異年齢の児童が共同作業や学び合う機会を創出したことで、子どもたちの生き生きとした姿等が見られた。 支援員確保については、広報やハローワーク等で募集を行なった結果、5名の支援員等を雇用了。</p> <p><b>【課題】</b> 期始時登録者数と期末時登録者数を比較すると18%減少した。支援員が子どもたちに寄り添い一緒に過ごす時間を設けていくことで子どもたちが進んで行きたいと思える居場所にする必要がある。引き続き、体験プログラムを取り入れ、楽しく学べる放課後事業を目指したい。特別な支援の必要な児童たちへ対応できる人材が不足しており、支援員の知識を養うための人材育成プログラムも必要である。</p>	体育青少年課												

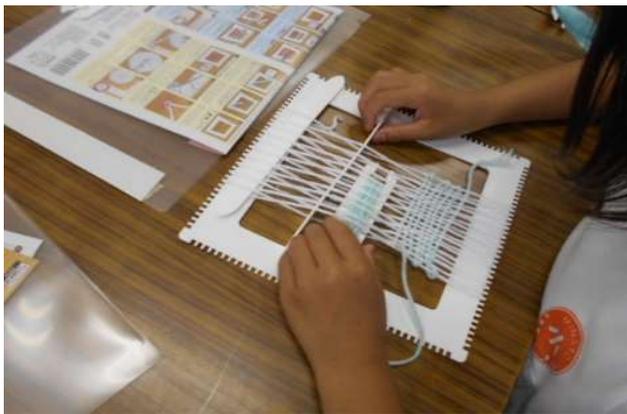
重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課															
			成果・課題及び今後の対応等																
① ③	土曜チャレンジ教室	<p>地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、土曜日や長期休暇等に体系的・継続的なプログラムを計画・実施した。</p> <p>放課後子ども教室開催校を対象にした土曜教室を14回、夏休みチャレンジ教室を7日間、市内児童を対象にやまの学園を12日間開催した。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>土曜日や長期休暇ならではの多様なプログラムや体験学習、継続的なプログラムを実施することで、子どもたちに経験の場を提供し世代間交流を支援することができた。</p> <p>課題であった定員を超えた教室の対応について、土曜チャレンジ教室は、午前の部と午後の部に分けて実施し、抽選漏れを作らないようにした。その結果、昨年度を上回る児童が参加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>くのべ参加人数</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土曜チャレンジ教室</td> <td>261人</td> <td>181人</td> </tr> <tr> <td>夏休みチャレンジ教室</td> <td>150人</td> <td>134人</td> </tr> <tr> <td>やまの学園</td> <td>235人</td> <td>285人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>646人</td> <td>600人</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【課題】</b></p> <p>特に夏休み事業については参加希望者が多く、抽選にせざるを得ない状況である。実施方法等を検討していく必要がある。</p>	くのべ参加人数	29年度	30年度	土曜チャレンジ教室	261人	181人	夏休みチャレンジ教室	150人	134人	やまの学園	235人	285人	合計	646人	600人	体育青少年課
くのべ参加人数	29年度	30年度																	
土曜チャレンジ教室	261人	181人																	
夏休みチャレンジ教室	150人	134人																	
やまの学園	235人	285人																	
合計	646人	600人																	



ボルタリング・土曜チャレンジ教室



めだか捕り・やまの学園



手織り・放課後子ども教室



大型ダンボール工作・放課後子ども教室

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価		担当課
			成果・課題及び今後の対応等		
②	青少年育成センター事業	<p>子どもたちの健全育成事業を各種団体長、関係機関が集まり、青少年問題協議会を設立。南あわじ子育てネットワーク推進協議会と共に青少年健全育成市民会議を開催した。</p> <p>また、街頭補導活動の充実、「地域のおじさん・おばさん運動」の推進、学校・地域・関係機関との連携強化を図る活動を展開した。</p> <p>南あわじ市スマホ・ネット推進委員会を開催し、市内小中学校の全児童生徒に南あわじ市スマホルール等の啓発リーフレットを配布した。</p>	<p><b>【成果】</b> 非行を未然に防ぐため、年間を通して青少年補導委員による一斉街頭補導活動や地域のおじさんおばさん運動等を継続している中で、青少年を有害な環境から守り、非行化を未然に防止するものとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民会議参加者 約170人（補導委員）</li> <li>・活動回数 159回</li> <li>・活動延べ人数 704人</li> </ul> <p><b>【課題】</b> インターネットの利用に関して青少年を犯罪から未然に防ぐため、ネット利用の危険性や家庭内でのルール作りなど必要な情報を提供してきたが、今後さらに関係機関・団体等と情報の共有、連携を図りながら、より巧妙になる犯罪の手口から子どもを守っていくため、適切な利用の啓発活動を展開し、周知を図ることが必要となっている。</p>	青少年育成センター	
③	青少年健全育成事業	<p>青少年教育の一環として、アウトドア活動を主にした様々な体験活動を通じ、地域の教育力向上と青少年の可能性を広げる事業を展開した。</p>	<p><b>【成果】</b> B&amp;G海洋教室においては、台風や異常気象等で中止もあったが親と子のふれあいキャンプなど9日間開催し、述べ約190名の児童生徒が参加した。また、様々な団体を15日間約470名を受け入れ、その中でも児童養護施設の子どもたち54名や障害のある子どもたち10名を対象にしたプログラムも実施し、普段体験する機会の少ない海洋性レクリエーションを体験することで子どもたちの社会性、主体性を育むことに寄与した。</p> <p>わんぱく塾事業では、夏休み期間や冬休みなどの長期休暇に講座を開設し、合計16事業36講座を実施し、1,667名の申込みに対し、延べ1,112名の参加者を迎えた。複数講座への受講生を除いた実参加者も722名となり、市内の小学校における児童数が2,400名を下回る現状で、相当数の児童が参加し開催を楽しみにしている事業へと発展している。わんぱく塾ではあえて大人数で行う事業を増やしている。100名以上が集まるD-1グランプリやナイトウォークのほか、デイキャンプ、四万十川源流探検や南の島探検などでは目一杯大勢の子どもを参加させることにより、集団での自立性の確立といった能力を伸ばす目的も兼ね備えている。</p> <p>また、福祉部局との協力や防災教育など幅広く学習に取り入れている。他にもボーイスカウト活動等も青少年教育の一環として取り組んでいる。</p> <p>安全面への配慮から指導員の確保が課題となっていたが、ボーイスカウト活動助成を実施する中で、アウトドア活動の経験豊富なスカウト指導者に積極的に指導員として協力して頂ける関係になった。また退職した教職員や現職の教職員のほか高校生ボランティアなどにも協力を得られるようになったことで、これまで以上に事業展開の幅が広がった。</p> <p><b>【課題】</b> 放課後子ども教室や土曜チャレンジ事業等と重なる部分も多く、特に夏休みなどは事業間の連絡、調整が必要であり重複するメニューについては、わんぱく塾等の事業での整理も考えなければならない。</p>	体育青少年課・中央公民館	

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
⑤	食育推進事業	連合PTA事業として、市内各小学校1年生の保護者を対象に、給食試食会を実施した。	<p>【成果】</p> <p>保護者が実際に学校給食を食べることにより、地産地消、安全安心への理解を深めることができ、家庭での食生活を考える機会となった。</p> <p>市内小学校16校すべてで給食試食会を実施し、433名の保護者が参加した。</p> <p>【課題】</p> <p>今後も給食試食会を実施することで、食生活について考える機会を増やすとともに、地域と学校との連携をさらに深め、食育についてともに考え、語り続けていく取組が必要である。</p>	社会教育課



わんぱく塾：南の島探検隊



わんぱく塾：デイキャンプ



わんぱく塾：ららんバスの旅



わんぱく塾：昔遊びの集い！

## 基本方針2 体験を通して学ぶ伝統文化の香り高いまちづくりの支援

### 【重点目標】

- ① 伝統文化の継承を支援し、子どもたちの伝統文化への関心と理解を深めるとともに、発表の機会を提供するよう努める。
- ② 文化財の保存と文化施設の活用を図り、地域に密着した学習・情報拠点としてのサービス機能の向上に努める。
- ③ 市民の生きがいをづくりを支援するため、ライフステージに応じた学習機会の充実や、学習成果を生かすことができる機会、情報の提供などに努める。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	伝統文化の 伝承	<p>淡路人形浄瑠璃をはじめとし、市内で継承される伝統文化の保存伝承の支援・発表会など、後継者育成に努めた。</p> <p>また、淡路人形浄瑠璃体験教室事業補助金により、淡路人形浄瑠璃を多くの児童生徒が鑑賞できる機会を創出した。</p>	<p><b>【成果】</b> 淡路人形浄瑠璃体験教室事業では、9団体839名の利用があり、淡路人形浄瑠璃の魅力を発信できた。</p> <p>子ども伝統芸能発表会では、今般の少子化の中、13団体約300名の出演があり、出演団体数は減少となったものの、出演者数は昨年とほぼ同数であった。舞台運営は、保存団体等の指導者の協力で行われるなど、郷土芸能への関心が伺われる。</p> <p><b>【課題】</b> 郷土芸能の保存伝承については、小・中学校等との連携を図りながら、後継者育成に取り組んでいるが、社会体育や文化活動への参加など多様化し、減退傾向にあるとともに、後継者不足・指導者不足といった課題をかかえる団体が増加している。伝統芸能の保存伝承活動のためには、伝統芸能を体験できる事業を増やし、伝統芸能の魅力を周知していく必要がある。また、保存団体間の交流の場を作り、情報交換をする必要がある。</p>	社会 教育課
①	資料館事業	<p>市村六之丞座の諸道具一式をはじめ、主として淡路人形浄瑠璃に関する資料等の収集・保存と調査研究を目的とし、淡路人形をはじめとする郷土の伝統と文化について、地域住民の理解と関心を深めるための学習、文化活動の場を提供した。また淡路島内外において淡路人形浄瑠璃の観光PRにも役立てた。</p>	<p><b>【成果】</b> 来館者数5,414人、団体見学59組を数えた。展示や各種講座、解説・講演などを通して、淡路人形浄瑠璃の文化的価値を、広く地域住民や観光客に発信した。特に、市内小学校の課外授業で来館した児童に対し、淡路人形浄瑠璃の歴史等について解説した。また、淡路人形座の特別公演を中心に淡路人形浄瑠璃に関する動画撮影を行い、今後の資料となるよう記録、保存に努めた。</p> <p><b>【課題】</b> 資料を安全に保存・管理するための収蔵庫の燻蒸作業や、老朽化した保管環境調整機器の更新を計画する必要がある。また、収集した資料や写真記録については、調査が終了したものから適正な整理並びに分類方法を計画し、実施する必要がある。</p> <p>淡路人形浄瑠璃の歴史的な紹介だけでなく、淡路人形座への誘導、人形芝居鑑賞につながる取組が必要である。</p>	社会 教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	美術館事業	<p>南画界の第一人者、直原玉青画伯の絵画展示を中心に館蔵品展を2回、特別展「マイケル・ホフマン×仁科恵椒二人展～墨絵と書のコラボレーション～邂逅-Sonorous Voices-」、 「良華ムラギシ南画屏風展」、「平成円空彫り作品展」、また松帆銅鐸に関する「『造る』展」を開催した。夏休みには、子どもを対象としたワークショップ事業を開催する等、市民のための芸術・文化活動を推進し、生涯学習の活性化を図った。 また、観光及び文化振興の拠点としての運営を行った。</p>	<p><b>【成果】</b> 特別展「マイケル・ホフマン×仁科恵椒二人展～墨絵と書のコラボレーション～邂逅-Sonorous Voices-」では、直原玉青画伯の弟子マイケル・ホフマン氏と、書道家仁科恵椒氏の合作展を開催。会期68日入館者数843人。両氏を講師に迎えて墨絵と書のワークショップを夏休みに3回実施し、37名の参加があった。 「『造る』展」では、松帆銅鐸2号・4号の展示を中心に、銅鐸を作ることに焦点をあて、鑄型や材料の金属、銅鐸の鑄造過程についての解説などを加えた展示を行った。会期中には、ギャラリートークを3回、ワークショップ「ミニチュア松帆銅鐸1号2号、古津路銅剣、六鈴鏡を作ろう！」を開催。子どもから大人まで、市民をはじめ全国からの来場者に対し、南あわじ市の歴史遺産の魅力を発信することができた。会期56日、入館者数614人。 銅鐸鑄造体験では、島外から考古ファンの参加者も多く、本事業を通じ、松帆銅鐸をより身近に感じてもらえる機会を提供することができた。</p> <p><b>【課題】</b> 松帆銅鐸をさらにPRするため、広報活動を今後も継続していく必要がある。VR(ヴァーチャルリアリティ)で松帆銅鐸と古代の淡路島を紹介しているが、映像の内容に新たな情報を追加し、また操作しやすいものへの改良が必要である。 多目的室を利用し、今後も日本遺産や松帆銅鐸に関連したワークショップ事業を行い、観光ボランティアの協力も得ながら、市民や観光客にむけての情報発信を行っていく。</p>	社会 教育課



松帆銅鐸鑄造体験



勾玉作り

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	文化財の保護	<p>(1)指定文化財の保護 南あわじ市文化財保護審議会に意見を求めながら、市内に有する文化財の保存・管理及び伝承に努めた。 また、文化財保護のみに留まらず、文化財を活用し、文化財を通して南あわじ市の歴史を知り、郷土愛の醸成を図る事業の実施を行った。</p>	<p>【成果】 市内の未指定文化財の価値を南あわじ市文化財保護審議会のもと調査検討し、指定に向け方向性を確認し、今後の適正な保存・管理のための計画を推進することができた。 また、指定文化財や登録有形文化財に関する市民講座を実施し、南あわじ市の特色ある文化財を紹介することで、郷土愛を育むことができた。</p> <p>【課題】 現在、市内には国・県・市指定文化財が79件、国登録文化財が11件、現在検討されている市指定候補14件と多数の文化財が存在し、今後、適正な保存管理のため、よりきめ細かな状況把握に努め、計画的な保存・管理対策を講じていく必要がある。 淡路島日本遺産の認定に伴い、松帆銅鐸の普及啓発については進んでいるが、市内に点在する構成文化財の有効活用は当課単独ではなく庁内各課と横断的に協力し、その手法を検討する必要がある。</p>	社会教育課
②	埋蔵文化財の保護	<p>(2)埋蔵文化財の保護と公開 ①埋蔵文化財調査について 国衙地区本発掘調査5,100㎡ 養宜地区圃場整備本発掘調査10,400㎡ほか4件の調査を実施した。 ②松帆銅鐸について 調査研究委員会の開催 科学分析調査の実施 講演会、住民対象のワークショップの開発・開催、SNSを使用した情報発信を実施し、調査研究・普及啓発を推進した。 ③教育・普及活動について 勾玉づくり、ミニチュア銅鐸铸造体験や銅鐸はんこを使ったワークショップを開催した。 平成26年度調査年報を発行した。 埋蔵文化財速報展の開催、国衙地区の記者発表と現地説明会を開催した。</p>	<p>【成果】 国衙地区の本発掘調査において、官衙(役所)に関係する可能性の高い建物跡が確認され、現地説明会を行った。また調査の一部を民間に委託した。養宜地区は本発掘調査が当年度より始まり、圃場整備部分に関して民間に調査の委託を行い、市道部分については市で調査を行い、弥生時代の堅穴住居跡等を確認した。片田地区と八幡北地区の確認調査を終了した。 松帆銅鐸については、『「造る」展 — product 最先端技術で作られた銅鐸 —』や古代淡路島フェスティバルの開催により、南あわじ市民のみならず全国的に着実に松帆銅鐸の名前が浸透してきていることを再確認した。また、民間の関連商品の開発は増えていないが、イベント等での販売は好評である。铸造体験は松帆銅鐸を含め4種に型を増やし、南あわじ市の青銅器文化への関心を高めることができた。 今年度は年報の発行、展示会の開催、現地説明会、記者発表により、市内の埋蔵文化財調査の研究成果を発表した。</p> <p>【課題】 松帆銅鐸について、国県の補助金を活用し、調査研究等を計画的に実施しているが、銅鐸が地元にないため、より効果的な情報発信・普及啓発を進める必要がある。また、松帆銅鐸は2020年に当市に戻ってくることをPRし、島外からの観光客誘致をさらに図らなければならない。 圃場整備事業に伴う発掘調査の増加に伴い、当年度に引き続き養宜地区において、民間への調査委託を実施し、請負事業とのきめ細やかな調整を図る必要がある。</p>	社会教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	南あわじ音楽祭	<p>市民が国内最高峰の演奏家によるクラシック音楽を鑑賞する機会として、南あわじ音楽祭を企画した。</p> <p>①第7回南あわじ音楽祭 東京フィルハーモニー交響楽団のトップメンバーによる演奏会を開催した。</p> <p>②ピクニックコンサート・ハートふれあいコンサート 南あわじ市で音楽活動する個人や団体が、その活動成果を発表する場としてのイベントを開催した。</p> <p>①②それぞれの会場では、南あわじ市出身の物理学者で純正調オルガンの発明者・田中正平博士の功績を、小中学生でも読めるように工夫したパネルを作成、展示し、啓発グッズも配布するなど普及啓発した。</p>	<p><b>【成果】</b> 音楽祭の入場者数391人。クラシックコンサートに関する簡単なマナーについて、注意喚起をしたことにより、昨年度よりも観客のマナーが向上していたように思われる。オーディションでは、市内在住の高校生が選ばれ、東京フィルのトップメンバーと共演することが出来た。 論鶴羽ダムでピクニックコンサートを実施し、約150名の来場者が音楽を楽しむとともに、市内のアマチュア音楽団体の発表の舞台を作ることができた。併せて市内における野外コンサートの可能性を確認することができた。 ハートふれあいコンサートを開催したことで、出演団体間の交流が活発になった。来場者は、多様なジャンルの音楽に興味や関心をもち、新たなことに挑戦したいという気持ちが芽生えた子どもたちがいた。</p> <p><b>【課題】</b> 現在の音楽祭を実施している音楽によるまちづくり実行委員会は、その大半が設立当時のメンバーであり、新しい委員が加入していない。10回目の音楽祭が一つの区切となるため、それまでに次の担い手が必要である。</p>	社会教育課
②	図書館資料の充実	<p>市立図書館と3公民館図書室(中央・広田・湊)の運営では、図書館協議会の意見を活かしながら、蔵書の充実や利用者へのサービス向上に努めている。また、次年度からの図書館のあり方について検討した。</p>	<p><b>【成果】</b> 蔵書数303,935冊、図書館年間貸出冊数は延べ204,442冊、貸出利用人数は延べ51,491人で前年度よりわずかに減少しているが、おはなし会やブックスタート事業を通じ、幼児から若年層へと幅広く読書に親しむ機会を提供することができた。広田地区公民館改修工事に伴い図書室の閉館があったものの、図書館が市民の生涯学習の場・交流の場として機能している。</p> <p><b>【課題】</b> 図書館サービスの根幹である蔵書の収集・保存・提供を充実するため、市民の学習活動の支援や読書活動に役立つ資料の収集、選書を検討し、利用者へのサービスが低下しないように配慮する必要がある。 また、カウンター業務において、よりきめ細やかな接遇の向上を図りたい。</p>	社会教育課
②	子ども読書活動の推進	<p>子どもの読書への意欲・関心をより高めるため、各種読書活動を実施した。</p>	<p><b>【成果】</b> 「おはなし会」、「ブックスタート」、図書館フェアの「絵本づくり教室」等を実施することにより、多数の親子が図書館を訪れることができ、本と触れ合う機会を提供できた。</p> <p><b>【課題】</b> 本に親しむ環境に導くために、子どもたちを図書館に招き入れる仕組み作り、創意工夫が必要であり、POP等、独自のアイデア、事業を検討していく必要がある。</p>	社会教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
③	文化団体育成事業	南あわじ市文化協会を中心とした市民の文化活動に助成を行うとともに、各種文化団体の運営等、その活動を支援した。	<p>【成果】</p> <p>文化協会の連携による、ふれあい文化芸能祭を中心に、各地区公民館などが実施する文化祭など、多くの市内住民が参画する機会を提供することができた。30年度は、第10回目の節目に津軽三味線の宮史郎さんと高橋静雄さん、歌手の野々村あいさんをゲストとしてお招きして開催した。</p> <p>【課題】</p> <p>文化協会の自主活動の推進がうまくいっていない部分がある。又組織の若返りと体制強化を推進する必要がある。</p>	中央公民館
③	学習機会の提供(公民館事業)	中央公民館・福良地区公民館においては、教養・健康・実用・子ども向け等の講座を前期24講座、後期3講座を実施した。	<p>【成果】</p> <p>各公民館での独自性のある講座開催により、多様化した学習内容の学習機会を提供することができた。若者向けの講座としてZUMBAダンスや山登り入門講座を開催した。また、21地区に設置している地区公民館と連携し、芸術文化の振興を図ることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>公民館職員の減少と所管事務の増大や事業関係予算の縮減により、従来どおりの講座運営が難しくなりつつあり、事業の縮小が進んでいる。今後は住民のニーズを汲み取った講座運営では無く、運営が簡単な講座に絞って実施する必要がある。</p>	中央公民館



公民館活動

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価		担当課
			成果・課題及び今後の対応等		
③	アジア国際 子ども映画 祭	<p>小・中・高校生を対象に、「自己責任」をテーマとして、3分間の映像作品を募集した。</p> <p>映画制作を通して、子どもたちの協調性や責任感を養い精神的な成長を望むとともに、「子どもたちの心に内視鏡を入れよう」というコンセプトのもと、9月29日「アジア国際子ども映画祭 関西・四国ブロック大会(予選大会)」を開催した。また、上位受賞3作品については、11月24日に開催された北見市での本選大会に出品された。また受賞者は、北見市に招待され引率を行なった。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>テーマは「自己責任」</p> <p>子どもたちが作った映像及び大会開催に至るまでの協議や意見交換を通じて、子ども達の心の声に耳を傾けるきわめて有意義な機会となった。映画制作に参加する動機や取り組みの過程が重要であり、子ども達にとっては、作品の制作を通して各々の達成感や自信につながったとの声を聞くことができ、青少年育成の意義、目的に寄与できた。</p> <p>市内19作品のほか、兵庫県内、京都、三重、奈良、和歌山、愛媛からの応募も含め、合わせて34作品が集まった。審査員からは回を重ねるごとに提出される作品の質が向上しているとの講評もいただいた。また、本選大会に招待された子ども達は、カーリングなどの体験を通じて、アジア各国・地域の子供達と交流を図ることで友好を深めるとともに、国際的な視野・他国の文化を知る貴重な経験ができた。</p> <p>学校教育においては、映像作品を教材活用し、作品を通して、海外と日本の境遇や考え方の違いなどをどう感じたか等、学校内でディスカッションする機会を設けた。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>子どもだけで映像作品を制作するという関わりが難しい事業であるが、本市における本選大会開催に向けて、青少年の育成に寄与することを重点に置いた事業として、作品の教育現場での活用などを継続的に実施していくことが必要である。また31年度の本選大会開催に向けての組織体制の構築と市民への認知度向上を図ることが重要である。</p>		体育青 少年課
③	高齢者大学 うずしお学 園	<p>南あわじ市在住で60歳以上の方を対象に、豊かな老後生活と個人の学習意欲を高めるとともに、相互の親睦を図り、さらには地域での指導者として、生きがいのある生活基盤を構築できる手助けとなることを目的とする事業である。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>一般教養講座の充実と併せて、クラブ活動にも力を入れた結果、健康クラブ及びふるさと探訪クラブの参加者が徐々に増え、全体の受講生数は193名と前年より減少する中で、うずしお学園を通じて中央公民館へ足を運ぶ受講生数は増加した。また、一般教養講座以外にも特別講座として認知症サポーター研修や高齢者元気活躍推進説明会など要望に基づき開催した。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>社会参加を行い現役で活躍する高齢者が増えたことで、高齢者大学の新規受講生や、特に若年高齢者層が少なくなり、平均年齢も78.5歳を超えるまでになった。そうすると中央公民館まで通学する交通手段に窮する受講生が増えてきた。</p>		中 央 公 民 館

## 基本方針3 人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進

### 【重点目標】

- ① 共に生きるまちづくりに向け、地域で起こる身近な人権問題に対し、正しい認識を培い、主体的な行動を促す人権学習を進める。
- ② 一人一人の個性が大切にされ、人権尊重の文化に満ちた社会の創造に努める。

重点目標項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	人権啓発の推進	人と人が温かくふれあい、つながりの輪を広めることを目的に、8月は人権文化をすすめる県民運動推進強調月間、12月は人権週間に合わせ、人権フェスティバルを開催し、啓発活動を推進した。	<b>【成果】</b> 8月の人権文化をすすめる県民運動推進強調月間にあわせて、じんけんサマーフェスティバルを開催し、ダウン症児への理解を深めるために、金澤泰子さんを講師に招き講演会を開催した。また12月の人権週間中のフェスティバルでは人権作文の表彰式と代表者による朗読で、子どもたちが自分の生活をしっかりと見つめ、体験を通して感じたことを表現した作文の内容を、大人も聞くことにより、多様な人権文化を学ぶ好機となった。 幅広い年齢層向けで啓発を実施したこともあり、サマーフェスティバルでは約650人、12月のフェスティバルでは約300人の参加があり、人権意識が広く浸透した。	社会教育課
			<b>【課題】</b> 人権尊重の文化が根付くまちづくりを推進するためには、継続的な啓発事業が必要である。講演会や地区別学習会等では、参加者に身近な話題で人権課題に向き合えるように工夫を講じなければならない。 ささまざまな、人権問題に対し、世の中にあふれている情報を「正しく知り、正しく行動する」人権啓発の充実に取り組まなければならない。	



外国人技能実習生に学ぶ



人権フェスティバル

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	人権教育の 推進	<p>(1)地区別人権学習会 身近な生活の場において、解決すべき人権課題があることに気づき、部落差別をはじめとしてあらゆる人権問題の解決に向けた学習活動を実施した。</p> <p>(2)人権学習講座 差別解消三法の施行により、教育・啓発が地方公共団体の責務となっていることから、法律の内容を知り、私たちにできることを考える講座、情報化社会により、SNSへの投稿が容易になり、人権侵害の被害者にも加害者にもならないための講座を実施。</p>	<p>【成果】 人権問題が多様化、複雑化している現代社会において、人権に関する正しい理解と認識を深めるために、身近な人権課題に気づくことから始める冊子「気づきタウン」を作成し、「気づこう！正しく知ろう！ともに歩こう！」をスローガンに人権学習会を実施した。 地区別学習会では、本年度は、「女性の人権」を重点テーマとしてかかげ、南あわじ市の女性の労働率や特定出生率が県下1位である反面、男女間の地位や管理職の女性の割合が低い現状など身近な話題で市内12地区の学習会を実施した。 差別解消三法の施行や、急激な情報化社会の進化による新たな課題に取り組むために、市職員研修をはじめとする人権研修会を実施し、法律の理解やSNSの差別事象の現状を理解し、対応の必要性を学んだ。</p> <p>【課題】 市民の意識の中には、依然として人権学習は難しい、堅苦しいといった意識がある。人権研修会においては、市民に身近な話題を提供し、自分たちに何が出来るかを考え、行動を促すことが必要である。 インターネットの急速な進展により、差別が拡大している現状であるため、幅広い年齢層の研修を継続的に実施しなければならない。</p>	社会 教育課



職員人権研修



道徳教育と人権教育研究プロジェクト



小・中学校人権教育授業研究会

## 基本方針4 運動に親しみ体力の向上をめざした生涯スポーツの推進

### 【重点目標】

- ① 気軽にスポーツを楽しめるよう環境整備に努めるとともに、地域に根付く多様なスポーツ活動の推進を図る。
- ② 優れたスポーツイベントに触れる機会を提供し、住民に夢と感動を与え、スポーツへの関心を高め、社会に活力を生み出し、住民生活に広く寄与する。
- ③ 豊かなスポーツライフを実現し、体力の向上と地域コミュニティづくりに活かす。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
① ② ③	市民スポーツの振興	市民スポーツの核となる社会体育施設・学校体育施設を市民に開放している。工事等については、西淡社会教育センターブロック塀等撤去工事やB&G海洋センターグラウンド、八木小学校グラウンドのナイター水銀灯等の取換工事等の環境整備を実施した。また、スポーツ推進委員等を中心としたニュースポーツ普及活動等を市内で実施した。	<p>【成果】</p> <p>社会体育施設・学校体育施設とも環境整備を随時進めている。老朽化とともに大阪北部地震により一部崩壊等の危険な状態であった西淡社会教育センターブロック塀の撤去等を実施し、より安心安全で快適に施設を利用できるようになった。</p> <p>【課題】</p> <p>スポーツ施設の環境整備、建物等の安全性の確保は当然のことながら、人口減少・少子化に関連し、長期的な視野に立ったスポーツ施設の維持管理・再編計画の整備が急がれるが、市全体の施設の管理運営を検討する段階になっている。</p> <p>また、使用料・減免基準の見直しや財源財源確保も重要な課題と考えており、南あわじ市における持続可能な市民のスポーツ環境の構築を目指す。</p>	体育青少年課
① ② ③	体育協会大会の開催	南あわじ市体育協会主催事業として体力測定会健康事業やランニングフェスティバルを始め、市が主催するオリパラフラッグセレモニーに合わせバレー教室等を4回実施した。各種目大会16回、地区事業等においても積極的にスポーツ大会を実施。障害スポーツ社会の実現、健康保持、体力維持に繋がる運動の意識づけや啓発を目的とした事業を実施した。	<p>【成果】</p> <p>体力測定会の参加者数は120名で毎年同程度でランニングフェスティバルは596名で前年度比19%増であり、市民のスポーツ等への関心は高くなっている。スポーツ教室や講演会を行い、スポーツの普及活動や青少年育成にも積極的に取り組めた。</p> <p>【課題】</p> <p>市民を対象にしたイベントに取り組むことで市民の健康増進やスポーツへの理解と関心を図ることが求められている。2020年の東京五輪に向けては、市と共有しながら、市民のスポーツへの醸成に力を入れていく必要がある。</p>	体育青少年課
① ③	温水プール運営事業	平成25年度から5年間の指定管理を終了し、引き続き30年度から(株)エヌ・エス・アイを指定管理者として運営委託している。水泳を通しての市民の体力向上、健康促進を図った。自主事業として幼児から大人までの水泳教室を実施し、競技力向上にも力を入れ全国大会出場者も輩出している。またウォーターライダー用ポンプ取換工事等の工事を実施した。	<p>【成果】</p> <p>スクール在籍者は5%程度減少しているが、一般利用者数は1.6%増加しており、指定管理事業としては適正に運営管理できている。</p> <p>【課題】</p> <p>建設から25年以上経過し、施設及び設備が老朽化している。電気系統、ヒートポンプ温水機器においては順次更新工事を進めているが、天井の雨漏りについては、施設全体に発生しており、早急に対応が必要である。また、運営方法に工夫を凝らして、利用者数増に繋げていくことを期待したい。</p>	体育青少年課

## 基本方針5 社会教育の指導者としての資質と実践的指導力の向上

### 【重点目標】

- ① さまざまな個人の要望や社会の要請に応える専門的指導者の育成に努める。
- ② 学校・家庭・地域の連携を支える指導者の育成やネットワークづくりを進め、地域の教育力の向上に努める。
- ③ 地域においてスポーツを推進する中から優れた選手、指導者を育くみ、その選手、指導者が地域におけるスポーツの推進に寄与するという好循環を創出する。

重点目標項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	社会教育活動事業	市内に指導者としての資質を有する人材を発掘し、指導の機会などを提供すると同時に、指導者交流の機会などを通じて、人材の育成や資質の向上に努めた。	<p>【成果】</p> <p>公民館講座、伝統芸能保存伝承、放課後子ども教室、子ども映画祭等、生涯学習の各分野で市内の指導者としての人材を活用し、教育活動に参画させることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>事務局は社会教育活動に参画できる人材を、いつまでサポートし、その先どう自立させていくかを中長期的に検討したのち事業を始める必要がある。また、継続事業はいつまでサポートすべきかを検討する必要がある。</p>	社会教育課・体育青少年課
②	学校支援地域本部事業	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもたちを育てるため、地域住民に学校支援ボランティアとして協力要請をし、市内小中学校の各種授業等の運営を支援している。また、専門知識を持つボランティアがゲストティーチャーとして専門的(栄養指導等)な講義を行った。	<p>【成果】</p> <p>校外学習(町探検)の引率、校内マラソン大会の安全管理、小学1年生の下校時の見守り引率等、児童の安全のため、校外での安全指導を支援してきた。</p> <p>また、家庭科授業では製作(エプロン、ナップザック等)、調理実習補助を支援してきた。</p> <p>ゲストティーチャーとして、ブラインドサッカーの体験授業等を実施した。</p> <p>課題であったボランティアの確保や活動を広く周知することについて、ボランティアが必要な小学校区に募集のチラシを配布や活動状況のチラシを各学校へ配布し活動内容の周知を図った。</p> <p>その結果、ボランティア登録人数は、平成29年度は、150人であったが、平成30年度は、161人の11人の増加だった。</p> <p>また、活動回数は、平成29年度は139回から平成30年度118回であった。</p> <p>実施小中学校も平成29年度は16校から平成30年度は15校であった。</p> <p>【課題】</p> <p>引き続きボランティアの方に地域差があるため、各地域、校区で活動可能な新たな地域ボランティアの確保に向けて、活動を広く周知することが必要であるとともに「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」を進めていくうえで、市民交流センターと協力しながら地域と学校が連携・協働する体制を構築していく必要がある。</p>	体育青少年課
③	南あわじ市スポーツ賞	南あわじ市の体育・スポーツの普及、推進及び競技力の向上を図るため、スポーツに関し優秀な成果を収めた者若しくは団体又は体育・スポーツの健全な普及及び発展に貢献した者若しくは団体に対してスポーツ賞の表彰を行った。	<p>【成果】</p> <p>本市の体育・スポーツの普及、推進に著しく功績を収めた者(功労賞 2名) スポーツ競技において優秀な成績を収めた者及び団体(優秀選手賞 58名)(奨励賞 8名)合計68名に授与した。</p> <p>【課題】</p> <p>市内スポーツ関係者などからの情報収集ができていないが、島外や社会人として活躍している方の情報が少ないため、より多くの方に周知できるよう関係者との連携を強化し、情報収集の方法について検討していく必要がある。</p>	体育青少年課

### Ⅲ. 教育環境の変化に対応する取組

#### ◆教育委員の活動

1. 毎月、定例会議を開催した。
2. 総合教育会議を2回開催した。
3. 県主催研修会等、8回の研修会に参加した。
4. 幼稚園1園、小学校7校、中学校3校の学校訪問を実施した。

#### ◆教育施設再編に向けての取組

1. 小中学校の再編に向けて、該当校区の地域の方々への説明会を7回開催した。

#### ◆教育環境の整備

##### 【学校教育施設】

1. 小学校4校(倭文・神代・北阿万・阿万)に空調設備設置工事を実施した。
2. 大規模改造工事の実施
  - ・広田中学校大規模改造工事(2期)
3. 校舎等営繕工事を実施した。
  - ・(小学校)阿万小学校屋内運動場フローリング改修工事外7件
  - ・(中学校)南淡中学校プール改修工事外4件

##### 【社会教育施設】

1. 広田地区公民館耐震補強大規模改修工事を実施した。
2. 湊地区公民館大規模改修工事を実施した。
3. 西淡社会教育センターブロック塀等撤去工事を実施した。
4. サンプルウォータースライダー用ポンプ取換工事を実施した。
5. サンプルヒートポンプ温水機更新及び電気設備修繕工事を着手した。
6. B&G海洋センターグラウンドナイター水銀灯及び安定器の取換工事を実施した。
7. B&G海洋センター艇庫 救助艇エンジン取換工事を実施した。

## IV. 評価委員の意見

南あわじ市教育に関する事務の点検及び評価委員会委員

近藤 宰 常

前川 美津子

郷野 祐佳

(学校教育について)

- がんばりタイム事業については、放課後の時間を活用し、子どもたちが希望して学びたいという気持ちで参加しており、学力を定着させるための有効な取り組みであるため、更なる充実を図っていただきたい。
- 特別な支援を要する児童生徒の通級指導については、個々の発達特性を理解し、個々のつまずきに応じた指導なので、わかる喜びが実感でき学習が楽しくなる取り組みになっている。支援を要する児童は年々増えてきている現状であるが、個々の特性に応じた通級指導により、学ぶ楽しさ・喜びを味わってもらうため、出来るだけニーズに応じられるよう支援員等の配置・活用についてさらに充実させていく必要があると考える。
- 専門家から特別支援教育支援員へ、個々の特性に応じた的確なアドバイス等ができるように、関係機関との連携が必要である。
- 外国語活動・英語教育の推進に関して、教員・ALT・STの3人体制が定着したことにより、児童を英語好きにさせる授業が実施できている。そのことが学力向上につながっているため、さらに活発に取り組んでいただきたい。
- 外国語活動で、幼稚園・保育所においてもALTを派遣し、「えいご遊び」を実施しているが、2歳から5歳の間は、聞く力、真似る力が優れているため、5歳までに始めるということは会話力をつける意味でも非常に有効な取り組みである。また、小さな頃から外国人と触れ合うことで、子どもの視野を広げたり、人権感覚を高めることにも、非常に有効と思われるので、引き続き実施されたい。
- 兵庫版道徳教育副読本の家庭での活用により、保護者の教育力向上に資すると思われるので、もっと浸透させていっていただきたい。
- 夢プロジェクト事業について、学校現場でも関心が高く好評価を得ている。感化力のある方の実力を目の前で見たり、話を聞くことで、夢や目標に向け意欲を高める素晴らしい取り組みであるので、引き続き実施されたい。
- 子ども安全対策について、警察との連携が図られている中で、地域の見守り体制がとても行き届いている。また、「こどもあんしんネット」では、緊急防犯情報や学校情報等を配信し、中身も充実しているので高く評価できる。今後ともより安全で安心な学校・地域づくりに取り組んでいただきたい。

- 休校等による授業時数不足となった場合の対策を講じていかなければならない。
- 空調設備が整ったということは評価できる。今後ともより良い学習環境保全に努めていただきたい。

(社会教育について)

- 家庭学習の手引き作成事業について、子どもたちが自主的に家庭学習に取り組んでいることは、高く評価できる。
- 学童保育について、働く保護者にとって大変有効な事業である。
- 学童保育について、特別な支援を要する子どもに対応できる支援員が不足しているため、早急な対応をお願いしたい。また、支援員の知識を養うための人材育成プログラムも早急に取り組んでいただきたい。
- 青少年健全育成事業の「わんぱく塾」について、年々希望者が増えており、夏休みを有意義に過ごせる事業として高く評価できる。
- 文化施設の活用について、市民の関心を高める効果的な啓発活動を行い、教育や観光振興に活用できるよう取り組んでいただきたい。
- 市内にある文化的資源となる文化財について、観光資源として活用できるよう、周辺整備等を行っていただきたい。
- 公民館活動の充実のために、地域の中高齢者から指導者となるような人材を発掘し、地域が元気になるような取り組みを実施していただきたい。
- 教育環境の整備では、随時、修繕等の対応を行っており、行き届いた教育環境になっている。今後も、さらに充実した環境づくりを目指していただきたい。